

ポケモンに転生した人間の話

藤宮シノ(仮)

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

目が覚めたら森の中。

うまく動かない体あたりを見回し、視界に入ったものに嫌な予感を感じつつ、近くの川の水面に姿を写して見たら、ポケモンになっていた。

まあなってしまったものは仕方ない。野生ポケモンライフを楽しもう。どうせなら進化してみたい。

と思ったら、進化するためには人間にゲットされなければいけないらしい。どうしよう。

っていう話です。

初投稿です。よろしくお願いします。

目次

あ！ やせいの ○○○○が とびだしてきた！	
タマゴが かえって ○○○○が うまれた！	1

あ！ やせいの ○○○○が とびだしてきた！
タマゴが かえって ○○○○が うまれた！

ふと、目を覚ます。

暖かい日差し、爽やかな風、葉の擦れる音、水が流れる音。

実にいい二度寝日和だ。ここがどこだか知らないが、もう一眠りしてしまおう。

今日は休日だし、特にやらなければいけないこともなかった筈だ。
よし、寝よう。

……

待て、ここは何処だ？

急に眠気が吹っ飛んだ。

自分は昨日、確かに自室のベッドで寝た筈だ。何故ここにいます？
とりあえずは起き上がろう。話はそれからだ。

……

何でか体がうまく動かない。仕方がないので首だけ動かしてあたりを見回す。

まず視界に入るのは草木、少し離れた所に川。そして自分のすぐ近くに茶色と白の何かの破片。

聞こえるのは葉の擦れる音、水が流れる音、遠くの方から何かの鳴き声。

視線を胸元にやると、白いもふもふしたものが目につく。何だこれは。

手足を動かしてみると、白いもふもふの下から茶色い小さなものがちらちら出てくる。…嫌な予感がする。

しばらくしてある程度体が動くようになってきたので、立ち上がってみる。

……一応四つん這いにはなれた。が、この時点で明らかにおかしい点がいくつもある。

普通四つん這いになったら、手のひらと膝が地につく筈だが、何故

というかイーブイって何を食べるんだ？

生まれたての赤ちゃんポケモンの自分に食べられる物はこの森にあるのか？

考えてる時間はない。早く何か口にしなければ餓死まっしぐらだ。